

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月6日

【評価実施概要】

事業所番号	3770101560
法人名	社会福祉法人サマリア
事業所名	西春日グループホーム
所在地	香川県高松市西春日町1511-1 (電話)087-869-1165

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年8月8日	評価決定日	平成20年10月6日

【情報提供票より】(20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)13年10月1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	9人 常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての2階 ~ 3階
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	11,500円	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 950円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	83歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤クリニック	高松市民病院	大西病院	カモン歯科
---------	---------	--------	------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特別養護老人ホームに併設された複合施設の2階にあり、他のサービス事業所の持つ機能を最大限に活かし、行事、クラブなどで交流が図れている。施設は緑豊かな住宅街に位置し、散歩や畑作業も生活の中に取り入れている。近くのスーパーへの買い物、コミュニティセンターでの活動や保育所との交流など地域にも積極的に出かけている。また、特別養護老人ホームに併設されていることもあり、重度化への対応や看取りに対する対応も行われている。生活の援助についても利用者の生活歴や特徴、特技、趣味などを把握し、個別性のある援助を展開している。家族への近況報告は、写真を上手く使い生活ぶりが伝わる内容のものであり、家族もグループホームでの生活ぶりをより身近に感じることができる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設内において、グループホームの場所が分かりにくいとの指摘を受けていたことに対して、総合玄関に案内図を設置したり、グループホーム入口に「グループホーム」の掲示をするなどの改善を図っている。しかし、浴室の修繕や他のグループホームとの交流など、未解決な問題も残されており、今後の取組みに期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員から自己評価の意見を確認、集約した結果を公表している。自ら課題とする項目も多く出され、よりよい生活を援助したい熱意が現われており、今後の職員会議や運営推進会議での取組みに期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月に一度開催されており、市の代表者、利用者や家族の代表者、地域の自治会、老人会代表者だけでなく、コミュニティーセンター館長や保健委員会会長などの参加もあり、会議における地域性にも広がりを見せている。議事内容も多岐にわたり、災害対策、畑の活用、家族間の交流、ホームの行事についてなど、積極的に議論がされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営母体である社会福祉法人の広報誌とは別に、グループホーム独自の広報誌「そら」を毎月発行している。また、担当者直筆の便りと預り金収支報告などを毎月送付し、家族に分かりやすい情報の提供をしている。また、面会時にも意見・要望を聞き、職員会議などで議論し反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営母体である社会福祉法人の地域性を活かしつつ、グループホーム独自の地域活動も展開できている。散歩や外出だけでなく、コミュニティーセンターや保育所に出かけるなど、日常生活での地域交流も積極的に行なわれている。逆に、運営母体へのボランティアや訪問は多いが、グループホームへの訪問は少ないため、グループホームへの訪問による交流や活動を期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体である社会福祉法人の理念とは別にグループホームの理念をつくりあげている。「馴染みのある人たちと共に、住み慣れたところで、その人らしく安心して生活が送られる」という理念のもと、個別援助を大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼での唱和はもちろんのこと、理念に含まれた援助目的を理解し、個別性を重視した援助に取り組んでいる。また、地域での暮らしを実現するため、外出だけでなく地域での活動も積極的に実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体である社会福祉法人の地域性を活かしつつ、グループホーム独自の地域活動も展開できている。散歩や外出だけでなく、コミュニティーセンターや保育所に出かけるなど、日常生活での地域交流も積極的に行なわれている。	○	母体施設へのボランティアや訪問は多いが、グループホームへの訪問は少ないため、グループホームへの訪問による交流や活動を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価において、グループホームの場所が分かりにくいとの指摘を受けていたことに対して、総合玄関に案内図を設置したり、グループホーム入口に「グループホーム」の掲示をするなどの改善を図っている。自ら課題とする項目も多く出され、よりよい生活を援助したい熱意が現れている。	○	浴室の修繕や他のグループホームとの交流など、未解決な問題も残されており、長期的なビジョンのなか、計画的な向上に向けて今後の取組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催しており、市の代表者、利用者や家族の代表者、地域の自治会、老人会の代表者だけでなく、コミュニティーセンター館長や保健委員会会長などの参加もあり、会議における地域性にも広がりを見せている。議事内容も多岐にわたり、災害対策、畑の活用、家族間の交流、ホームの行事についてなど、積極的に議論がされている。	○	積極的な意見も多く出ているので、意見をグループホームの向上へとつなげる取組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課や地域包括支援センターの職員が、運営推進会議の参加者として立ち寄るだけでなく、日常的にも行き来があり、立ち寄った際にサービスの質の向上につながる意見交換もしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	グループホーム独自の機関紙は、写真、編集に工夫があり、日常生活の様子や表情がよく伝わるものが作成されている。機関紙とは別に担当者からの手紙、預り金収支報告なども行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、声をかけ近況を報告すると共に意見の聴取を心掛けている。	○	グループホーム専用の意見箱の設置や独自のアンケートを実施するなどの更なる取組みが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	引継ぎノートを設置したり、職員が代わることで利用者へのケアに変化がないように独自の工夫をしている。	○	家族への異動報告や連絡など、更なる取組みが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の職員会議の場でグループホーム独自の研修を行っている。他にも運営主体である社会福祉法人が行う研修に参加したり、施設外の研修にも積極的に参加している。また、日常的にも介護支援専門員や介護リーダーなどのアドバイスを気軽に受けられる状態である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修会に積極的に参加している。	○	参加だけでなく、交流の中から、自らのグループホームの質の向上につながるような取組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	生活アセスメントを重視している。特に生活歴の聞き取り、把握を大切に、利用者本人が馴染める環境をつくり出そうと努力している。また、入居前の在宅サービス提供スタッフとの連携を密にして、馴染めるような工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	少しのことに気づき、本人の持つ思い、希望、力を最大限に生かし、自らの生活を律するような接し方をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活アセスメントを重視している。特に生活歴の聞き取り、把握を大切に、利用者本人の希望、意向が十分に聞き取れ、その思いが介護計画やケアに反映している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向がしっかりと計画に反映され、本人、家族のサービス担当者会議への参加も多い。また、職員の意見、気づきも職員会議を通じて介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態および要介護認定更新時には、必ずサービス担当者会議を開催し、利用者の現状に応じた介護計画作成がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者一人ひとりの要望に応じて、通院・外出などの支援ができています。また、地域との交流事業へも積極的に参加しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・精神科・歯科など、医師などと相談できる関係が築けている。また、希望者へは入居前のかかりつけ医への受診支援や連携もできています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去の看取りの経験を生かし、看取りに関して家族や医師と話し合っている。また、委員会活動を通じ、看取りが適切にできるような学習機会もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録も鍵のかかる場所に収納され、保管は適切であった。対応も優しく丁寧な言葉遣いで利用者個人を大切にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や昼食時間など、日課にとらわれず、利用者のペースで対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	肉が好きな希望者へは、メニューに肉を入れるなどの嗜好調査に基づいてメニューを考えている。お好み焼きなど特異な希望の場合は、個別外食などで希望に対応している。通常の食事と一緒に準備したり片付けるなどを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ずつ、その人の希望に合わせた介助を行っている。入浴を拒否する方にも、その人にあわせた声かけや誘導など工夫をして、楽しんで入浴してもらえるようにしている。	○	グループホーム内の浴室が故障して以来、改修されていない。配管工事を伴ない、大規模な改修を必要とするため、長期的な計画を持ち改修へ向けての努力に期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農家出身の方にはプランターの世話や畑作業、元事務員の方にはそろばんなど、入居者の生活歴に応じた役割、楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や畑作業、買い物、個別外出などの外出支援をしている。また、コミュニティーセンターの行事にも積極的に参加し地域交流も行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホーム入口は常に解放されている。居室もプライバシー保護のため、戸は閉めているが鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器・スプリンクラーなどの設備も用意されており、年一回の避難訓練も実施し、全職員が非常口、避難経路を把握している。マニュアルもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設に栄養士がおり、適時アドバイスが受けられる状態にある。グループホーム独自で調理する場合も、食材は多くの種類を取り入れるように工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、家具の色に気を配っており、色彩的にも落ち着ける。花や装飾品も程よい数で、季節感を感じながら落ち着く感じを出している。	○	グループホーム入口(玄関)を玄関らしく装飾されることが望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の入居前の所持品が多く持ち込まれ、その方の趣味などにあわせた装飾も施されており、落ち着いた居室空間の工夫がされている。		